

教育ボランティアだより

No.29

～子どもの成長にかかわりたい～

2021年2月1日 教職支援室

甲府市立上条中学校・・・1月27日（水）訪問

訪問者：田中勝、時友裕紀子

今回訪問させていただいたのは、甲府市立上条中学校(10学級、生徒数325名)です。開校33年目の新しい学校で、生徒会活動が盛んです。上条中学校では、科学教育コース理科教育系1年生の菊池央人さんが、10月から活動しています(毎週水曜日5・6校時、1年生2クラス)。当日はお忙しい中、教務主任の小林 稔先生が対応してくださいました。



＜上条中学校の校舎＞

5校時に、1年1組の数学の授業(TT)を参観しました。菊池さんは教室の後ろに立ち、時々、生徒にアドバイスをしていました。生徒からの声かけ(質問?)もあったように見受けられました。活動中の服装等もきちんとしていました。男子テニス部で部活動指導もしているそうです。



＜1年1組の数学の授業(TT)＞

◇菊池さんに聞いてみました(後日、大学でインタビューを実施)

教育ボランティア活動をしようと思ったのはなぜですか？

・山梨県で中学校(理科)の先生になりたいと思っています。大学の授業では学校現場にかかわる機会が少ないので貴重だと思いました。子どもが好きです。子どもの成長にかかわれるのは楽しいし、やりがいを感じます。

教育ボランティア活動から学んだことは何ですか？

・中学生や現職の先生とかかわる機会が持てたことがよかったです。
・授業では、自分が分かっても教えるのは難しいと思いました。
・放課後、学級担任の井上先生から、学校の様子や学校教育の抱えている課題についても教えていただけありがたいです。

教職を目指す気持ちに変化はありましたか？

・活動は4年生まで続けていきたいです。先生になりたい気持ちは変わらず、より大きくなったと思います。

これから活動を始めようと考えている学生へのアドバイスはありますか？

・情報の集め方。必要な情報を集めることが大事だと思います。

小林 稔先生のお話

ここ数年、1～3名の教育ボランティア学生を受け入れています。教師を目指す学生が目的意識を持ってきてくれるので、受入側としては大事に育てたいと考えています。教育ボランティア学生は日常生活の中にスーッと入ってきてくれて、必要な部分をフォローしてくれるのでありがたいです。今年はコロナのために生徒の学校生活のスタートが遅れ、1年生は入学してすぐに授業となりましたが、菊池さんは中学校に慣れない1年生をフォローしてくれています。一斉授業の中では担任のみでは難しい場合や教師の目が行き届かないところもありますので、フォローしてくれるのは助かります。生徒も、学生には聞きやすいと思います。菊池さんは部活動でテニスも見せてくれます。今後、総合的な学習の時間を担当することがあれば、GIGAスクール構想に合わせて機器の扱いや調べ学習の指導補助なども手伝ってほしいと思っています。

◇訪問を終えて・・・菊池さんは「山梨県で先生になりたい」という目標を持ち1年次から活動を始めました。教師になりたい気持ちがより大きくなり、「教えるのは難しい」など多くの課題がわかったことは活動の成果と思いました。